

【 Oracle の起動と停止手順 および、状態確認】

『UNIX/Linux 版』

Oracle の起動手順

・環境変数の設定

設定が必要な環境変数

環境変数	設定値
NLS_LANG	シフト JIS 環境の場合 : "Japanese_JapanJA16SJIS" 日本語 EUC 環境の場合 : "Japanese_JapanJA16EUC" Unicode (UTF-8) 環境 : "Japanese_JapanAL32UTF8"
ORACLE_HOME	Oracle インストール時の指定ディレクトリ
ORACLE_SID	Oracle インストール時に指定した Oracle_SID 値
PATH	<ORACLE_SID>/bin

環境変数の確認

```
$ echo <環境変数>
```

環境変数の設定

[sh 系シェル]

```
$ <環境変数>=<設定値>    例 /disk1/app/oracle/product/11.1.5/db_1  
$ export <環境変数>
```

[csh 系シェル]

```
% setenv <環境変数> <設定値>
```

・Oracle のデーモン（サービス）の起動と確認

起動方法

UNIX 環境のデーモン・プロセスは、/etc/rc.boot、/etc/rc.single、/etc/rc、
/etc/rc.local ファイルに記述されたデーモン・ファイル名のモジュールをサー
ビスとして起動していく

確認方法

```
ps x | grep -i 'oracle'
```

・ Oracle インスタンス本体の起動

起動方法

```
$ sqlplus /nolog
sql> conn sys/パスワード as sysdba
sql> startup
```

・ Oracle インスタンスの状態確認

注) この操作は、**サーバーのキーボード**にて行う必要がある

Oracle サービス自体は、事前に起動していなければならない

SQL/Plus の起動と接続

インスタンス認証ができない状態を想定して、OS ユーザー認証を使用し
て Oracle との接続を行う

```
C:\> sqlplus / as sysdba
```

インスタンスの状態確認

```
sql> SELECT instance_name , status FROM V$INSTANCE ;
```

・ リスナー・サービスの起動

起動方法

```
$ lsnrctl start <リスナー名> ※ <リスナー名>は、省略可
```

確認方法

```
$ lsnrctl status <リスナー名> ※ <リスナー名>は、省略可
```

```
$ lsnrctl services <リスナー名> ※ <リスナー名>は、省略可
```

※ リスナー名 : Oracle<Oracle ホーム名>TNSListener

・ 『OEMコンソール画面』の**サービス**の起動

起動方法

```
$ emctl start dbconsole
```

確認方法

```
$ emctl status dbconsole
```

『UNIX/Linux 版』

Oracle の停止手順

- ・ OEM コンソール画面のサービスの停止

停止方法

```
$ emctl stop dbconsole
```

確認方法

```
$ emctl status dbconsole
```

- ・ リスナー・サービスの停止

停止方法

```
$ lsnrctl stop <リスナー名>
```

※ <リスナー名>は、省略可

確認方法

```
$ lsnrctl status <リスナー名>
```

※ <リスナー名>は、省略可

```
$ lsnrctl services <リスナー名>
```

※ <リスナー名>は、省略可

- ・ Oracle インスタンス本体の停止

停止方法

```
$ sqlplus /nolog
```

```
sql> conn sys/パスワード as sysdba
```

```
sql> shutdown [ normal | transactional | immediate | abort ]
```

確認方法

インスタンス認証ができないので、OS ユーザー認証を使用して Oracle との接続を行う

```
$ sqlplus / as sysdba
```

```
sql> SELECT instance_name, status FROM V$INSTANCE;
```

『Windows 版』

Oracle の起動手順

注意事項

コマンド・プロンプト画面の起動は、『**管理者として実行**』を行う
操作は、直接サーバーのキーボードで行う

・環境変数の設定

[Windows 用]

環境変数についてのセットと使い方については、... ¥Windows 関連
¥WindowsPC 設定¥環境変数.docx を参照のこと

c:¥> set <環境変数>=<設定値>

環境変数の確認

c:¥> set <環境変数>

※ =の前後に、ブランクは
入れないこと

使用例)

c:¥> **set ORACLE_SID=orcl**

c:¥> set ORACLE_SID

ORACLE_SID=orcl

環境変数の有効性

- ・コマンド・モード使用時には、%ORACLE_HOME%システム環境変数には、対象のディレクトリはセットされていない

× C:¥> cd %ORACLE_HOME%

指定されたパスが見つかりません

- ・Sql*Plus の中からスクリプト実行する時にしか使用出来ない

○ SQL> @%ORACLE_HOME%¥・・・¥sample.sql

- ・Sql*Plus の中のホスト・コマンドの実行でも使用出来ない

× SQL> host dir @%ORACLE_HOME%¥・・・¥sample.sql

• Oracle インスタンス本体の起動

Oracle サービスの起動

```
c:\> net start "OracleService<ORACLE_SID 名>"
```

Oracle サービスの確認

```
c:\> tasklist /FI "IMAGENAME eq oracle.exe" /V
```

もしくは、

```
c:\> tasklist /FI "SERVICES eq OracleService<ORACLE_SID 名>" /V
```

イメージ名	PID	セッション名	状態
oracle.exe	8896	Services	Unknown

※ Oracle は、シャットダウン状態でも OPEN 状態でも、状態は Unknown である

Oracle インスタンスの起動

```
c:\> set ORACLE_SID=<ORACLE_SID>
```

```
c:\> sqlplus /nolog
```

```
sql> conn sys/パスワード as sysdba
```

```
sql> startup
```

※ 通常、Oracle サービスの起動に自動で連動されて、Oracle インスタンスも起動される

• Oracle インスタンスの状態確認

注) この操作は、サーバーのキーボードにて行う必要がある

Oracle サービス自体は、事前に起動していなければならない

SQL/Plus の起動と接続

インスタンス認証ができない状態を想定して、OS ユーザー認証を使用して Oracle との接続を行う

```
C:\> sqlplus / as sysdba
```

インスタンスの状態確認

```
sql> SELECT instance_name, status FROM V$INSTANCE;
```

• リスナー・サービスの起動と確認

TNS Listener サービスの起動

```
c:\> net start Oracle<ORACLE_HOME>TNSListener
```

もしくは、

```
c:\> lsnrctl start <リスナー名> ※ <リスナー名>は、省略可
```

TNS Listener サービスの起動状態の確認

```
c:\> lsnrctl status <リスナー名> ※ <リスナー名>は、省略可
```

```
c:\> lsnrctl services <リスナー名> ※ <リスナー名>は、省略可
```

• OEMコンソール画面のサービスの起動と確認

起動

```
c:\> net start OracleDBConsole<ORACLE_SID>
```

確認

```
c:\> set ORACLE_SID=<ORACLE_SID>
```

```
c:\> emctl status dbconsole
```

『Windows 版』

Oracle の停止手順

- ・ O E M コンソール画面のサービスの停止

```
c:\> net stop OracleDBConsole<ORACLE_SID>
```

- ・ リスナー・サービスの停止

TNS Listener サービスの停止

```
c:\> net stop Oracle<ORACLE_HOME>TNSListener
```

例) OracleOraDb11g_home2 TNSListener

TNS Listener サービスの起動状態の確認

```
c:\> lsnrctl status <リスナー名> ※ <リスナー名>は、省略可
```

```
c:\> lsnrctl services <リスナー名> ※ <リスナー名>は、省略可
```

- ・ Oracle インスタンス本体の停止

Oracle インスタンスの停止

```
c:\> set ORACLE_SID=<ORACLE_SID>
```

```
c:\> sqlplus /nolog
```

```
sql> conn sys/パスワード as sysdba
```

```
sql> shutdown [ normal | transactional | immediate | abort ]
```

Oracle サービスの停止

```
c:\> net stop OracleService<ORACLE_SID>
```

OEM画面を提供するサービス (OracleDBConsole<SID>)

【コマンド・プロンプトからの「OracleDBConsole」サービスの起動】

※ コマンド・プロンプト画面を「管理者として実行」として起動させる必要がある

```
# 環境変数のセット
set oracle_sid=SID 値

# OEM 画面サービスの停止
emctl stop dbconsole

# OEM 画面サービスの開始
emctl start dbconsole

# OEM 画面サービスの状況（ステータス）確認
emctl status dbconsole
```

【Windows のサービス設定】

サービスの起動操作方法

[コントロールパネル] → [管理ツール] → [サービス] →
「OracleDBConsole<Oracle_SID>」

OEM画面を表示させるサービスの起動・停止手順は、サービス名を右クリックして操作したい処理（起動 or 停止）を選択する

OEMを利用するユーザーに必要な権限設定

SELECT ANY DICTIONARY	・・・・システム権限
SELECT CATALOG ROLE	・・・・ロール権限 <Oracle8i の場合>

OEM（EMDC）画面の表示

接続方法

http s : // ホスト名 < または、IP アドレス > : 1158/em/

ログイン画面

ユーザー名 :	<input type="text"/>
パスワード :	<input type="password"/>
接続モード :	<input type="text" value="Normal"/>

接続モードは、SYS ユーザーを使うときは SYSDBA を選択のこと